



## 子どもと家族と作業療法士を結ぶ「臨床推論」

講師：濱田 匠

所属：鈴鹿医療科学大学

---

発達過程の作業療法は、脳性麻痺や自閉スペクトラム症、知的発達症、診断の有無にかかわらず、作業発達に問題や課題がある子どもを対象に、病院や施設のみならず、地域の福祉機関や学校教育の現場、行政機関など、さまざまな領域や分野に広がりつつあります。また、発達過程の作業療法では、子どもと家族が直面する作業遂行の問題や課題に応じた、さまざまなアプローチ方法やそのエビデンスが構築されてきており、作業療法士はクライアントの「最適な作業療法」の探究や実践を求められています。

ここで、臨床場面において、作業療法士が抱く「困難な、難渋する事例」とは何でしょうか。「目標設定がわからない」、「どのようなアプローチ方法を選択すればよいのか」、「今までのかかわりでは上手くいかない、どのようにコミュニケーションすればよいのか」などの、疑問や困りごとが生じているかもしれません。実は、作業療法実践の思考プロセスの曖昧な状況が原因で、作業療法士が「困難な、難渋する事例」として認識していることかもしれません。

そこで、本スキルアップセミナーでは、いくつかの事例研究を紹介しながら、さまざまな「障害像」や「発達状態」、「主訴やニーズ」、「作業遂行の問題や課題」、「生活環境」、「作業療法の実施期間」に相応した、クライアント中心の発達過程の作業療法を実践するために必要な臨床推論を提案していきます。このことは、子どもと家族と作業療法士を結ぶことにつながり、さらに、作業療法実践を省察することで、クライアントの「最適な作業療法」の一助になると考えています。

### \*本スキルアップセミナーで紹介する事例研究

- ・自閉スペクトラム症の不応行動に対する支援方略で感覚特性を評価する意義—2事例における作業療法士の臨床推論や事例の行動変容から—。作業療法 40 (4), 2021.
- ・重症心身障害児の事物操作の学習に対する支援方略の検討—10年間継続して実施した作業療法の取り組み内容から—。発達障害研究 42 (2), 2020.
- ・児童養護施設に入所している発達障害児に対する作業療法の経験。作業療法ジャーナル 53 (10), 2019.
- ・二分脊椎症児に対するパウチ内の排泄物処理におけるセルフケア向上の取組 —作業療法士との協働に基づく患児主導によるシミュレーター教材の活用—。発達障害研究 38 (2), 2016.

## 略歴

---

氏名：濱田 匠（はまだ たくみ）

現職：鈴鹿医療大学保健衛生学部リハビリテーション学科 作業療法学専攻 助教

### 【学歴】

2005年3月 京都大学医療技術短期大学部 作業療学科 卒業

2012年3月 三重大学大学院 教育学研究科 修士課程 特別支援教育専攻 修了  
(教育学修士)

### 【職歴】

2005年5月 三重県立草の実リハビリテーションセンター

2017年6月 三重県立子ども心身発達医療センター

2019年4月 鈴鹿医療科学大学 保健衛生学部 リハビリテーション学科

### 【主な研究・業績】

- 重症心身障害児の特別支援学校の自立活動に対する医療機関に所属するリハビリテーション職種との連携におけるコンサルテーションの特徴ー各リハビリテーション職種の専門性と作業療法士の役割. 作業療法 41 (4), 2022.

#### ➤ プロジェクト

日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究 (C)

重症児の自立活動に対する作業療法コンサルテーションの方略策定と遠隔システムの構築 (2022-04-01~2025-03-31)